

# LE MANS

## LE MANS

# 2009ル・マン24時間



## 2009 年ル・マン 24 時間 プレビュー (4)

### 特殊なサーキットに対応する特別なタイヤ

予選ラップ平均時速が 250km 近く、1 周のうちに時速 300km を超える区間が 4 カ所もあるル・マン・サーキットは、タイヤの内部構造に試練を与えます。

第 77 回の今年は、レギュレーションの変更によってレース中にタイヤ交換をできるメカニックの人数が半分に減らされています。このため、LMP1 クラスのミシュランのパートナーチームは、ピットストップでのロスタイムをできるかぎりなくすために、1 セットのタイヤで最大 4 ステイメント\*すると考えられます。これは 1 周 13.629km という世界で最も長いコースの一つであるル・マン・サーキットを、タイヤ交換なしに約 700km 走ることを意味します。

モータースポーツ部門四輪レースマネージャーのマチュー・ボナデルは言います。「これまで 4 本のタイヤを交換するのに 12 秒から 15 秒だったのが、今年は 35 秒以上かかるでしょう。このためどのチームも耐久性重視の作戦に回帰しています。これはミシュランにとっても望むところ。ロングライフとコンスタントな速さの 2 つが、私たちのタイヤの長所ですから」

ル・マン・サーキットは区間によって路面が異なり、グリップ特性に差があるのも大きな問題です。さらにコース全長が長いので、場所によって天候のコンディションが異なる場合があるという難しさもあります。

このようなさまざまな条件に対応するために、ミシュランはタイヤのラインナップを見直しました。ロングライフ、グリップ、コンスタントな速さ、安全性のベストバランスを追求しています。

LMP1 クラス向けの今年のタイヤは全面刷新されました。LMP2 クラス向けは、レインタイヤに新しいレンジが開発され、ドライタイヤも改良されています。

スリックタイヤのコンパウンドは、ソフト、ミディアム、ハードの 3 種類を提供します。ソフトは路面温度が最も低い夜間に使用され、ハードはレースのスタートと終盤に使用されるはずですが。

レインタイヤには、インターミディエート、ウェット、フルウェットの 3 種類があります。2009 年のウェットタイヤは、さまざまな条件に対応できるように、トレッドデザインと内部構造を変更



しました。タイヤ開発は 2008 年を通じておこなわれました。これは開催地が常設コースでなく、年に一度しか走れないためです。

\*ステイント：スタートからピットイン、あるいはピットアウトから再度ピットインするまでの間隔

